

「東北・新潟のキラ☆パーソン」動画配信事業について

「東北・新潟のキラ☆パーソン」動画配信事業は、若者が東北圏（東北6県ならびに新潟県）を舞台に自分のキャリアやスキルの向上を目指し、自ら行動を起こすための「動機」や「気づき」につなげることを狙いに、2019年度から地域情報発信事業として取り組んでいる。

当センターホームページ内「東北・新潟のキラ☆パーソン」サイトでは、現在、61名の「キラ☆パーソン」を紹介している。東北圏の様々なフィールドで挑戦し活躍している若手起業家や経営者、社会課題の解決に取り組む方、先端技術に取り組む研究開発者達の働く姿、生き方、価値観などを現場感のある動画で発信している。

今年度は、東北圏の各県より1名ずつ、計7名の「キラ☆パーソン」の動画概要を3回に分けて紹介することとしており、前回発行の夏季号に続いて2回目の紹介となる。

是非ご一読いただくとともに、サイト内の実際の動画をご覧いただき、その想いや取り組みを感じていただきたい。

※本誌での紹介内容は、各動画の制作当時の情報を基に構成しています。

当センター「東北・新潟のキラ☆パーソン」
公式 YouTube チャンネルはこちら→→→



蛸原 紘子 さん

◆動画タイトル

『自然と共存しマタギの伝統を繋げる』

（公開日：2019年11月7日）

◆山形県小国町

◆マタギ／小国町職員



自然と共存し マタギの伝統を繋げる

小国町に暮らすことになったきっかけとは？

高校生の時から絵を描いていて、東北芸術工科大学の日本画コースに入学するために山形に来ました。

動物をずっと描いていて、どうしたら野生の動物を見られるのかと考えていた時に、マタギの研究をされている先生に出会い、話をしている中で「そんなに見たいのであれば、熊狩りに付いてくるか」と誘っていただき、二つ返事で付いていった先が小国町でした。

一緒に山を歩いてみると、猟師さんの山の歩

き方や見方というのが、私が見ている山の世界とは全く違うと感じ、そういう部分をもっと教わりたいという気持ちから、猟師さんたちと暮らしたいと思うようになりました。

蛸原 紘子さん / 小国町役場：マタギ



マタギたちの狩猟の様子
（写真提供：蛸原一平）

マタギとはどのようなものですか？

主に熊を獲る人たちというイメージが強いですが、春は山菜を採り、夏と秋はきのこを採ったり、沢釣りで魚を獲ったりする人もいます。冬は、うさぎや山鳥などを獲って、雪が解けてきたら熊を獲りに行く。一年を通じて山に入り、自分の掌のように山を知っている人々です。

マタギの魅力とは？

時期になったら山に入って熊を見つけて、皆で仕留めて、帰ってきたら宴会する。それをやらないと一年が始まらないような、必ずやらなければならない行事の一つのような感じで、病みつきになります。



蛸原さんが感じる幸せとは？

小国町はものすごく雪が多いですが、雪があることで冬はうさぎやカモシカなどの色々な足跡が見られるし、特に春は一日一日景色が変わっていくのを日々眺めています。また、知り合いから畑で育てた野菜をいただくのですが、山で採ったものやいただいたもので食卓が出来る上だと、とても幸せだなと感じます。

蛸原紘子さんの近況

- ◆動画公開の後、2人の子どもを出産し、子育てと仕事を両立させながらマタギも続ける。
- ◆マタギがガイドをする「朝日連峰山開き（毎年6月）」や「雪の学校※（毎年3月）」などのイベントを開催。

※地元のマタギと一緒に残雪の森を巡る1泊2日の体験プログラム。



小国町の魅力とは？

小国町出身の方には、小国は何もないからと言って都会を目指す人もたくさんいますが、人がたくさんいるところに行けば行くほど人間の代わりがきくと思います。一人ひとりを大事にしてくれる場所という意味では、小国町はすごくいい所だと思っています。

マタギとしての想いとは？

昔の人たちが大事にしてきた山の神様に対する敬意や獲った命の扱い方を、若者としてしっかりと後世に繋いでいかなければならないと思っています。



▶本編動画のご案内

本編動画は、下記二次元コードから視聴いただけます。



山内 まどか さん

◆動画タイトル

『日本で唯一動物園が教室の
フリースクール』

(公開日：2024年10月22日)

◆岩手県盛岡市

◆みんなのまなびば ぐるぐるの森 代表



「ぐるぐるの森」の活動内容と、動物園をフリースクールの教室に選んだ理由や想いとは？

子どもの学習支援、子どもの貧困対策として子ども食堂や食糧支援事業をしています。また、社会起業家の育成事業も行っています。

盛岡市動物公園 ZOOMO がリニューアルするにあたって、動物公園の考えとしても、動物を見に来るだけではなく、社会的価値を付加したいという思いが強くなりました。

動物公園では、色々な種類の仕事をしている大人がいます。また、オープンな空間であり、来園者も大勢行き交っています。

勉強に関しても、わざわざ自分が居たくないような苦しい環境でする必要は無いよねという想いがあったので、心も自由になれるような場所として、フリースクールをやるなら外でやりたいなと思っていました。



「ぐるぐるの森」での一日の過ごし方は？

午前中は、オンライン学習の教材を使ったり、漢字練習をしたりと、勉強をしています。お昼ご飯を食べたあとは自由学習の時間になっていて、園内の動物に会いに行くことが多いです。

子どもたちにはチャレンジも経験してほしいので、例えば、動物公園の困りごとについてどうしたら良いと思うか問いを投げかけて、企画書を作ってもらっています。それを動物公園に提出して、了解が得られたら実践しています。

子どもと言っても、姿形が子どもというだけであって、心が大人な子はたくさんいますし、大人が偉いということは無いと思っているので、対等でいたいと感じています。



フリースクールをはじめるきっかけとは？

年の離れた妹がいましたが、妹は高校生の時

に不登校になりました。その時、私は「学校に行かなきゃダメじゃん」とすごく思っていたんです。結果として妹は亡くなってしまい、どうしてこういうことが起きてしまったんだと思ひ、色々なことを調べているうちに、フリースクールという存在を知りました。その時から、これは絶対に必要だと感じ、いつかフリースクールをつくりたいと思いながらやってきました。



「ぐるぐるの森」の未来像は？

私が支援をしたいのは、子どもというよりは親が幸せに暮らせるようになったり、幸せな子育てをできるようになったりすることです。心

に余裕が生まれると、子どもたちに良い影響を及ぼすのではないかと考えています。

学校に行けなくなって親子で塞ぎ込んでいる方もすごくたくさんいます。そういう方たちに知ってもらい、気軽に来られるフリースクールにしたいと思っているので、もっと多くの子どもたちを受け入れられるようにしたいなと考えています。

若者たちへのメッセージ

失敗を恐れている若い人がすごく多いと感じるので、失敗しても大丈夫だから何でもやってみたらいいと思います。



山内まどかさんの近況

- ◆2026年：「ぐるぐるの森」が公益財団法人子ども未来支援財団「子どもサポート基金（2026年度）」※1の助成先団体に認定。

※1 東日本大震災で被災した地域の子どもたちを取り巻く環境に関わる中長期的課題に取り組む団体を助成する基金。

- ◆2025年：「ぐるぐるごはんプロジェクト 木曜よるごはん会」を開催。8月21日（木）から2026年1月15日（木）の期間、主に大学生を対象としたお弁当配付やフードパントリー※2を実施。

※2 生活に困っている方などへ、食品を無償で配布する活動。

▶本編動画のご案内

本編動画は、下記二次元コードから視聴いただけます。



杉浦 風ノ介 さん

◆動画タイトル

『「ノリ」が生み出す地方の活気
地方にこそあるチャレンジの舞台』
(公開日：2026年2月17日)

◆宮城県栗原市

◆六日町合同会社 代表社員／風の沢合同会社 代表



六日町との出会いは？

六日町通り商店街は、美術展を開催していた頃にポスターを貼ってもらうお願いをしていたり、お酒の会によく来ていただいていた方が実は商店街の人だったり、変わったおじさんがたくさんいる面白い商店街だと思っていました。雰囲気も下町人情の温かいような商店街なので、もっと人が集まってこの場所が面白くなるといいなと思っています。そのためには、ここで何かやりたいという人をマッチングさせる場所が必要だと思い、飲食業は未経験でしたがノリでカフェを始めました。



夜市とナイトマーケットの取り組みについて

六日町通り商店街には、この10年くらいで約30店舗が新しく開業しました。その若者た

ちで夜市を運営するとなると軋轢が生まれると思ったので、夜市をやっている日の同じ時間、同じ場所で違うイベントを開催するという形で、ナイトマーケットを始めました。外から見ると一つのイベントなのですが、実は別々のイベントが二つ走っています。夜市のノスタルジックな雰囲気を残したまま、商店街の名前を広げるためのイベントになるといいなと思っています。



交流イベント「六日知らず」とは？

毎月集まるイベントを開催していたところ「定期的にやっているのが良いね」という話になり、六日町にちなんで毎月六日に集まるイベントをやっていきましょうということで始まりました。最初は飲み会のような感じだったのですが、少しでも学びなどを共有できる方が良くと思い、今はゲストスピーカーを呼んで話を聞くような形にしています。細く長く続けるために



飲食物は持ち寄りにしていることで、ずっと続けてこられているのだと感じています。

思い描く将来像とは？

なんでこんなことをやっているのだろうと時々思うのですが、目指したいのは地方分権です。聞いたことが無いような商店街が元気になるということが大事だと思っていて、この地に



ヘンチクリンを100人くらい歩いて行ける範囲に集めたいなと思っています。そうすることで、何らかの化学反応が起こるのではないかと考えています。

若者へ伝えたいことは？

経営というのは、ちゃんとしなければいけないんだなということに、ようやく気づき始めました。ちゃんとやっていると地域の人も助けてくれますし、失敗しても痛手は食わないのかなと思います。チャレンジしやすい場所が地方にはあると思いますので、やりたいことがある人は、都会で埋もれるよりも地方に行くことが大事だと思っています。



杉浦風ノ介さんの近況

- ◆2026年：2月10日（火）、杉浦風ノ介さんが、総務省「令和7年度ふるさとづくり大賞（総務大臣賞）」を受賞。
- ◆2026年：7月10日（金）、六日町合同会社・六日町通り商店街が、経済産業省 中小企業庁「地域にかがやく わがまち商店街表彰2026」を受賞。

▶本編動画のご案内

本編動画は、下記二次元コードから視聴いただけます。



※本誌での紹介内容は、各動画の制作当時の情報を基に構成のうえ掲載しております。